

9. 計画の推進

(1) 推進していく基本的な体制

交通事業者、市民等、行政がそれぞれの役割を果たしながら、協働して公共交通をまもり育てていきます。

みんなが協働でまもり育てる公共交通



図 9-1 協働・連携イメージ

(2) PDCAサイクルの導入の検討

PDCA サイクルは、プロジェクトの実行に際し「計画をたて（Plan）、実行し（Do）、その評価（Check）にもとづいて改善（Action）を行うという工程を継続的に繰り返す」仕組み（考え方）です。

持続可能な公共交通システムを実現するためには、事業者、行政、市民等の三者が一体となって取組む必要があることから、施策の実施にあたっては、以下に示すようなPDCAサイクルの導入を検討します。

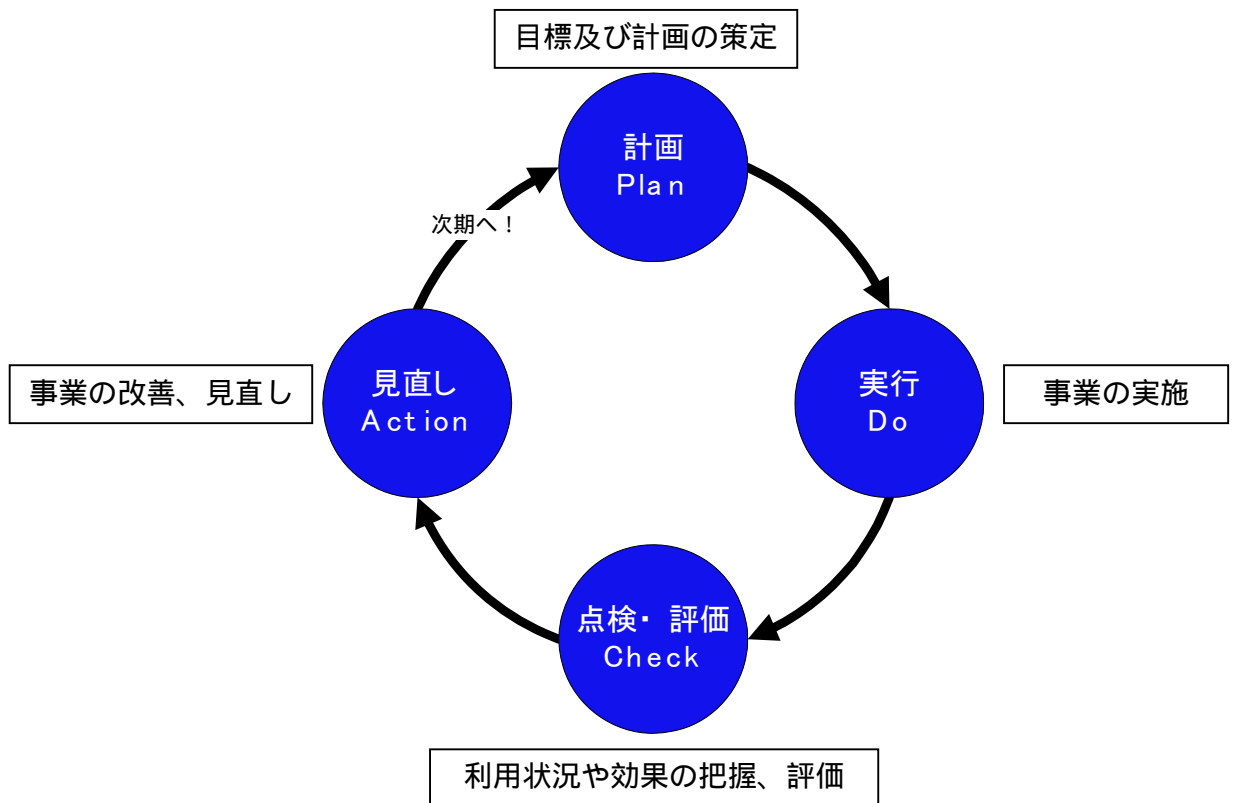


図 9-2 PDCAサイクル

概ね3年程度を目安に、その期間毎にサービス水準や利用促進策の見直しを図ります。

1年程度で点検・評価を繰り返し、改善を加えながら、3年程度で事業の抜本的な見直しを図ります。

また、点検・評価においては、市民等の実績を公表し、市民等の協力を得ながら実施します。

(3) 計画の目標値

バス利用者は、平成 10 年から平成 18 年にかけて、バス利用者は 20%以上減少しています。

長岡市総合計画（平成 19 年 3 月策定）では、バス利用者の減少傾向に歯止めをかけ、平成 22 年に現状の利用者数(平成 16 年～18 年の平均)を維持することを目標としています。

将来の人口減少と少子化により、利用者数の維持は大変厳しい状況が予想されますが、本計画を着実に進め、現状の利用者数を維持し、自家用車利用からの転換などによって公共交通を利用する割合（分担率）を高めることを目指します。

また、公共交通活性化方策によってバス利用環境の向上を図り、公共交通機関に満足している市民の割合を増やすことを目標とします。

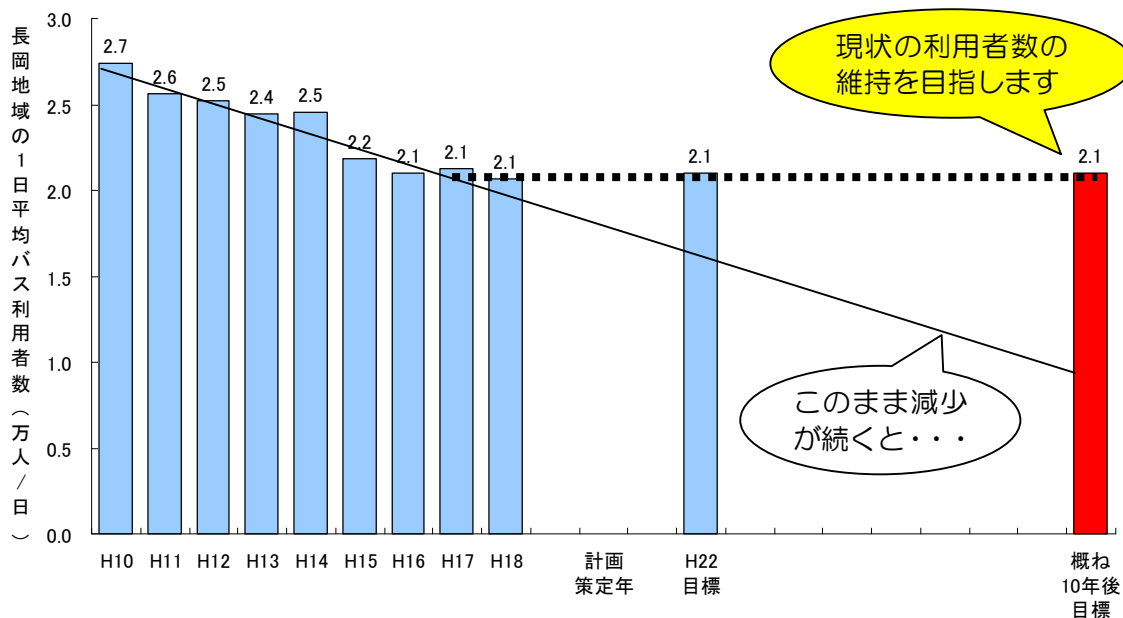


図 9-3 バス利用者数の目標

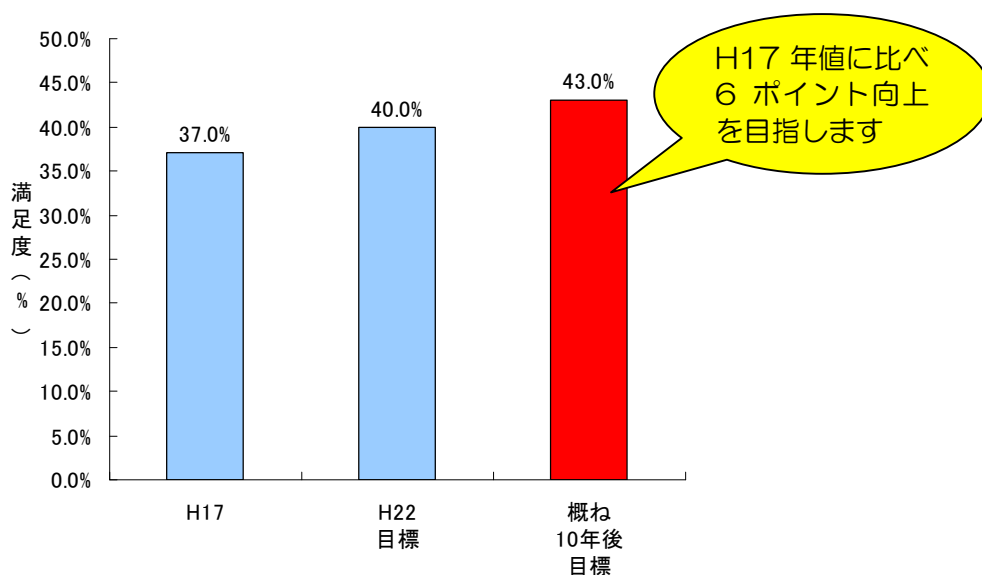


図 9-4 公共交通機関に満足している市民割合の目標